地域の健康づくり拠点
モデル銭湯検討 ワークショップ

豊島区健康づくりモデル浴場整備構想研究会
＆ 日本女子大学住居学科・佐藤研究室

プロジェクトの背景と目的

銭湯は、古くから入浴という行為を通じて、生活に密着した地域施設として機能してきました。しかし、今日では自家風呂の普及に伴い、利用者の減少、後継者難等厳しい経営状態にあり、転廃業が相次いでいます。

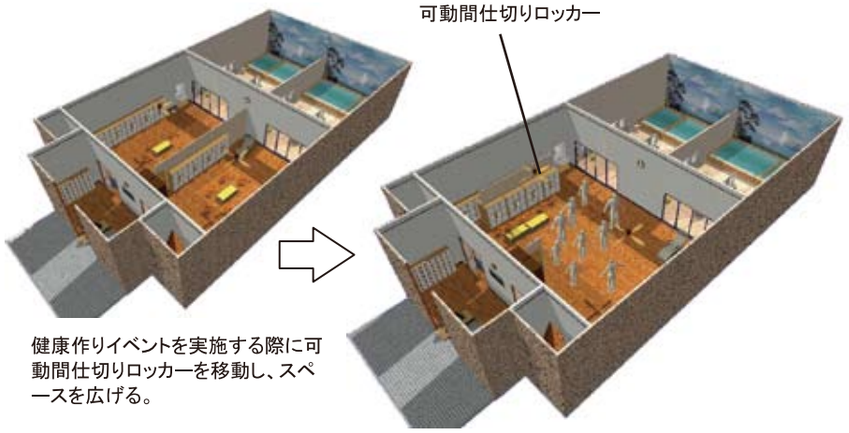
一方で、介護保険制度の見直しによって、明るく活力ある超高齢社会を築くために要介護状態の予防、改善を重視した「予防重視型システム」への転換が進められています。その「予防重視」に関しては「公衆浴場の確保のための特別措置に関する法律」の改正にも見られるように、公衆浴場が持つ健康維持・促進のポテンシャルを活用しようとする動きが現れています。

そのような背景を受けて、本プロジェクトは、銭湯を単なる入浴施設としてとらえるのではなく、地域の人々の健康づくりの場、交流の場である新たな地域施設としての活用の可能性を探ることを目的として、豊島区商工部・公衆浴場生活衛生同業組合・佐藤研究室の協働で進められました。

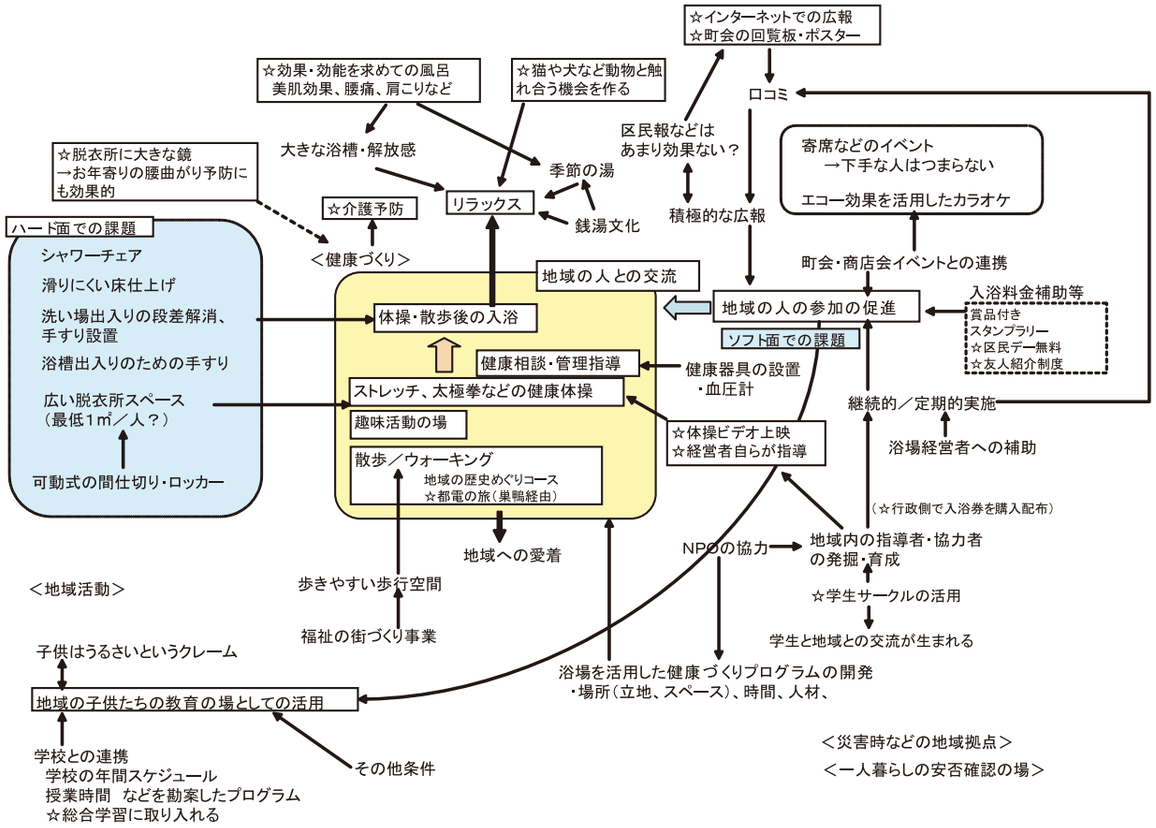
モデル銭湯検討の方法

豊島区の銭湯を対象として、銭湯経営者へのヒアリング、利用者へのアンケート、地域住民へのアンケート、銭湯を会場としてのワークショップの開催などを通して、現状の課題や銭湯へのニーズを明らかにしていきました。

最終的には、① 健康づくり、介護予防活動の場としての物的環境整備支援に関する提言（多くの地域住民の参加を促せるスペースの確保のために、キャスター付き可動間仕切り脱衣ロッカーなどの整備費補助）や、② 健康づくり事業の活性化に関する提言、③ 経営者への支援、住民の参加促進に関する提言、④ 公衆浴場を活用した地域コミュニティ活動支援に関する提言、⑤介護保険事業との連携提言などをまとめました。



健康作りイベントを実施する際に可動間仕切りロッカーを移動し、スペースを広げる。

モデル銭湯検討ワークショップで出された課題と改善策

公衆浴場の魅力、健康づくり・健康維持のための活動、地域の中の銭湯の役割、地域社会活動の場としての銭湯の可能性、必要な物的な要件（ものや建築的配慮）を抽出するために、佐藤研究室が中心となってモデル浴場検討ワークショップを実施しました。地域住民、行政担当者、公衆浴場経営者などの参加者から、公衆浴場での健康づくりの事業例として、体操・散歩後の入浴、健康相談・管理指導、ストレッチ、太極拳などの健康体操、趣味活動、地域を巡る散歩／ウォーキング　などが挙げられ、それにかかわる課題や提案が下の図のようにまとめられています。